

ISO/TC8/SC2/WG3 ハンブルグ会議

一般財団法人 日本舶用品検定協会
吉田公一
問い合わせ先
k-yoshida@hakuyohin.or.jp

1. 日時：2012年5月24日－25日 09:30-17:30
2. 場所：ドイツ、ハンブルグ、DIN ハンブルグ事務所、 Frankenstrasse 18B, Hamburg
3. 出席者：ドイツ 5名 (Wolfgang Lehman、Jens Jendrossek、MajaBuntrock、Dirk-Uwe Spengler、Jens-Uwe Jendrossek)、日本 1名 (吉田公一)、韓国 3名 (Seicahng Lee、I-S Shin、I-H Cha)、米国 1名 (Carolyn Junemann)、IACS 1名 (GL(5.24))

4. 審議事項

4.1 CD 17325-1 オイルブーム 設計基準

ドイツ Lehman 氏が用意した WD を検討し、CD 文書を作成した。主な審議事項は次のとおり。

- Introduction に、「この ISO 規格は海洋で使用するオイルブームに適用するが、湖川で使用するオイルブームでも使用できる。」を追加した。これは、欧州では、河川及び運河での利用が目されているためである。
- オイルブームを船舶で牽引する場合の強度基準を取り入れた (6.1 項)。この基準は、牽引の幅とオイルブームの水中深さに依存する。
- オイルブームのサイズ分けは、WD 案を基に、日本の意見を斟酌して修正した。JIS によるブームも、この分類によって分けられても、問題はないであろう。

仕上げた CD 文書により、CD 投票を開始することとなった。

4.2 WD17325-2 オイルブーム 引張強度及び性能基準

SC2 文書 N244 の WD を基に検討した。

- Introduction に JIS F9900 への reference を追加した。Bibliography にも加えた。
- 4 項に Part 1 及び Part3 への reference を加えた。従って、2 項にも normative reference として ISO 17325-1 及び ISO 17325-3 を加えた。また、ISO 3011、ISO 1421 も normative reference へ加えた。
- オイルブームの接続機構に関しては、限定しない。
- オイルブームの引張りメンバーに対して、引張り強度を要求する。
- オイルブームには波浪による繰り返し荷重が掛るため、繰り返し荷重を斟酌することは必要である。これを考慮して引張り強度を検討することとした。

CD 文書はさらに、コレスポンスで検討して仕上げることとなった。CD 文書はサイプラス会議及び TC8 シシリー会議で仕上げ、投票にだす予定である。

4.3 DIS 16165 用語

DIS 文書を仕上げた (5/24)。この DIS 文書を早速 ISO 中央事務局へ送り、DIS 投票を開始する (3 か月投票)。

4.4 16446

DIS 投票中 (5/25-10/25)

4.5 将来作業項目

- 17325-3 : 11 月までに NWIP を出す (韓国)
- 17325-4 : 11 月までに NWIP を出す (ドイツ)
- 油水分離器 : SC2 でやる方向で、専門家の招聘可能性を探る (ドイツ、米国、韓国、日本)。DIN にはすでに、本件の DIN 規格案があるので、NWIP 準備中。韓国も関心があり、DIN へ協力する。
- 溶剤(Sorbent)ブーム基準 : SC2WG3 でやる。NWIP を準備する (ドイツ)。
- Hydraulic power packs: オイルスキマー、ブームのオペレーションに使用するものである。EMSA で基準を作成中であるが、欧州基準ではなく ISO 規格としたい。

4.5 将来会議

次回 TC8SC2WG3 会議は、TC8 総会の週の月曜日 (10/22) に開催する。

なお、TC8SC2 総会 (サイプラス) の時には、WG4、WG5 及び WG6 会議を開催する予定である。